

社 会

1 得点分布及び小問ごとの正答率

表1 得点分布

得点	人数 650人	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	7	1.1
80～89	29	4.5
70～79	75	11.5
60～69	136	20.9
50～59	148	22.8
40～49	118	18.2
30～39	80	12.3
20～29	39	6.0
10～19	17	2.6
1～9	1	0.2
0	0	0.0

* 合格者の中から、無作為に抽出した650人(13.1%)の結果である。

* %の数値は、小数点第2位を四捨五入したものである。

表2 小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	大問	小問	正答率		
[1]	1	(1)	[3]	1	(1)		
		(2)			(2)		
		(3)			(3)		
		(4)			(4)		
		(5)			(5)		
		(6)			(6)		
	2	(2)		(1)	2	(1)	(1)
				(2)			(2)
				(3)			(3)
				(4)			(4)
(5)			(5)				
小計		54.9	小計		52.3		
[2]	1	(1)	[4]	1	(1)		
		(2)			(2)		
		(3)			(3)		
		(4)			(4)		
		(5)			(5)		
	2	(1)		(1)	小計	(1)	
				(2)		(2)	
				(3)		(3)	
				(4)		(4)	
				(5)		(5)	
小計		61.6	小計		31.0		

表3 大問別の正答率の経年比較

大問	分野	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
[1]	地理的分野	71.4	65.1	74.3	71.5	54.9
[2]	歴史的分野	66.6	53.3	61.4	67.3	61.6
[3]	公民的分野	63.8	65.0	66.3	59.4	52.3
[4]	3分野融合	67.2	43.9	62.7	72.9	31.0

2 分析結果の概要

表1 について、70点以上の人数は全体の17.1%で、昨年度に比べかなり減少した(昨年度51.1%)。50点未満の人数は39.3%で昨年度に比べ増加した(昨年度14.9%)。平均点を中心として、ほぼ正規分布となっている。

表2 について、正答率80%以上の問題数は6問で、地図や年表を用いて知識・理解を問う問題の正答率が高かった。正答率40%未満の問題数は9問で、図表や年表等の諸資料を活用し、考察したことを表現する力をみる問題の正答率が低かった。([1]の1の(6)、 [3]の1の(5)、 [3]の1の(6)、 [4]の(3)(4))

表3 について、分野別の正答率は歴史的分野が高く、融合問題が低かった。昨年度との比較では、すべての分野で正答率が低く、特に地理的分野と融合問題は、かなり低かった。

3 標準解答及び大問ごとのねらい

1 標準解答

1	(1)	インド洋	(2)	環太平洋 造山帯	(3)	工
	(4)	(例) 加盟時期が早い国々の多くは、一人あたりのGDPが高い傾向にある。		(5)	(例) 道路の整備	
	(6)	(例) アジア諸国の一人あたりの国民総所得の増加に伴い、現地での販売額が伸びてきていることから、今後さらに販売を拡大できる市場として期待される。				
2	(1)	ウ	(2)	(例) 軽量で高価	千葉港	東京港
	(3)	(例) 高度経済成長期に関東地方4都県の事業所数が増え、そこで働くために地方から移り住んだ多くの人が、今後75歳以上になっていくから。				
	(4)	(例) 開発前は雨が土にしみこんでいたが、開発後は住宅地や水のしみこみにくいコンクリート舗装が増えたことで、雨水が川へ直接流れ込み、川の流量が急激に増加するから。				

ねらい

日本とASEAN諸国との関係や、関東地方の特色や課題に関して調査を行う場面を設定した。その中で、日本及び世界の国々の地域的特色など、世界と日本の地域構成や地域の規模に応じた調査に関する事項・事柄について、様々な資料を用いて総合的に出題した。地理的な見方や考え方の基礎と我が国の国土に対する認識について、基礎的・基本的な知識や理解をみるとともに、社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する力、適切に表現する力をみる。

2 標準解答

1	(1)	ウ	(2)	イ	(3)	ア	(4)	エ	(5)	豊臣秀吉	
	(6)	(例) 江戸周辺でも綿製品、油、しょう油の生産がさかんになってきたので、それらの商品の江戸入荷分にしめる大阪からの割合が低下している。									
2	(1)	イ	(2)	ア	(3)	ア	(例) 物価が上昇した		イ	(例) 苦しく	
	(3)	ウ	(例) 一揆・打ちこわしが増加した			(4)	(例) イギリスは、ロシアの中国進出に対抗するために、日本を味方につけることが有益だと考えたから。				
	(5)	(例) 世界恐慌の影響で、日本が最も生糸を輸出しているアメリカが、不況になった(不況になり生糸が売れなくなった)から。									

ねらい

古代から近世にかけての宮崎と他の地域との結びつきや、日本の貿易の歴史などに関する資料を基に、調べて発表する場面を設定した。その中で、時代の移り変わりや各時代の特色、歴史的事象の過程や背景について、様々な資料を用いて総合的に出題した。我が国の歴史に対する理解と歴史についての見方や考え方について、基礎的・基本的な知識や理解をみるとともに、社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する力、適切に表現する力をみる。

3 標準解答

1	(1)	イ	(2)	議院内閣制		(3)	(例) 衆議院の優越があるから。				
	(4)	④	ウ	⑤	イ	⑥	ア	(5)	3	X	ア
	(6)	資料	(例) すべての人が平等に交通手段を確保できるという考え方。				資料	(例) 使用されていない公共の建物が無駄にならないように活用できるという考え方。			
2	(1)	株主		(2)	ア	エ	カ	(3)	ウ	(4)	エ
	(5)	記号	a	理由	(例) 規制緩和により国内航空事業者数が増えたことで競争が起き、運賃が下がったことが示されているから。						

ねらい

実際の国会の1年の動きや、企業を取り巻く人々に関する資料を基に、調べて発表する場面を設定した。その中で、政治や経済のしくみとその課題、現代社会と私たちの生活に関する基本的な考え方について、様々な資料を用いて総合的に出題した。政治や経済の見方や考え方の基礎と現代社会の特色について、基礎的・基本的な知識や理解をみるとともに、社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する力、適切に表現する力をみる。

4 標準解答

(1)	ア	藩	イ	県	(2)	エ	(3)	(例) 議会は、選挙によって選ばれた代表者で構成されており、その代表者に決定をゆだねている。			
(4)	記号	イ	理由	(例) イの表の上位にある宮崎県と鹿児島県は、米に比べてカロリーが低く価格の高い畜産物や野菜の生産がさかんだから。							

ねらい

近代以降の宮崎県の歴史に関する資料を基に、社会科3分野の視点で調査を行う場面を設定した。その中で、明治時代前半の歴史や議会制民主主義、都道府県別食料自給率について、様々な資料を用いて3分野融合の形式で出題した。3分野の基礎的・基本的な知識や理解する力をみるとともに、社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する力、適切に表現する力をみる。

4 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点		
				記号 選択	用語 記述	記述	知識 理解	思考 判断	資料 活用
1	1	地理的分野	(1)	インド洋の位置と名称について理解している。					
			(2)	環太平洋造山帯の位置と名称について理解している。					
			(3)	資料から国家群や国家の特徴を読み取り、その中からASEANを判断することができる。					
			(4)	ASEAN加盟各国のGDPの特徴と、各国の加盟時期との関連について考察し、説明することができる。					
			(5)	カンボジアに関する資料を基に、社会資本の具体的な在り方について説明することができる。					
			(6)	日本企業の海外進出の背景について、資料を基に考察し、説明することができる。					
	2		(1)	関東地方の気候や地形の特徴などについて理解している。					
			(2)	日本の貨物輸送の特徴を、資料を基に考察し、判断することができる。					
(3)		関東地方4都府の高齢化の背景について、資料を基に考察し、説明することができる。							
(4)		都市部における開発前後の河川の変化について資料を基に考察し、説明することができる。							
2	1	歴史的分野	(1)	古墳の広まりと大和政権との関係について理解している。					
			(2)	奈良時代の土地制度の変化について理解している。					
			(3)	鎌倉時代の将軍と御家人の関係について理解している。					
			(4)	市が発達した背景について、資料を基に考察し、判断することができる。					
			(5)	豊臣秀吉について理解している。					
			(6)	商品流通における江戸と大阪の関係の変化について、資料を基に考察し、説明することができる。					
	2		(1)	近世初期の日本の貿易について理解している。					
			(2)	鎖国下の対外政策の特色を理解している。					
			(3)	開国後の庶民の生活の変化について、資料から読み取り、説明することができる。					
			(4)	日英同盟を結んだ理由について、資料を基に考察し、説明することができる。					
	(5)	日本の生糸の輸出が減少した背景について、資料を基に考察し、説明することができる。							
3	1	公民的分野	(1)	国会の種類について、具体的事例を通して理解している。					
			(2)	議院内閣制について理解している。					
			(3)	衆議院の優越について理解している。					
			(4)	消費税に関する資料の分類の観点を考察し、判断できる。					
			(5)	一票の格差について、具体的事例を通して理解している。					
			(6)	「効率」と「公正」の考え方について、具体的事例を基に考察し、説明することができる。					
	2		(1)	株主について理解している。					
			(2)	流通の合理化について理解している。					
			(3)	日本型雇用慣行とその変化について、具体的事例を通して理解している。					
			(4)	企業の社会貢献について、具体的事例を通して理解している。					
	(5)	「大きな政府」と「小さな政府」の考え方を、具体的事例を基に考察し、判断することができる。							
4	融合	(1)	廃藩置県について宮崎県の資料と関連付けて理解している。						
		(2)	自由民権運動の特色について理解している。						
		(3)	議会の意義を、議会制民主主義の考え方を基に、説明することができる。						
		(4)	食料自給率の算出基準を、資料を基に考察し、判断することができる。						